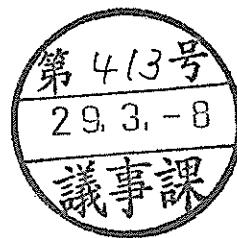


受理年月日	平成29年3月8日	付託年月日	平成29年3月9日	所管委員会	第3委員会
番号	29年請願第6号				
件名	人工島関連予算案の否決について				
請願者	東区奈多一丁目6-13 博多湾会議 共同代表 脇 義重				
紹介議員	荒木(筆頭)、森(あ)、綿貫、熊谷、星野、中山、倉元、堀内、ひえじま				
分割付託	なし				
要旨	<p>本市は、今なお博多湾を埋め立てて人工島を造成中です。この事業は計画段階から多くの問題点が指摘されてきました。401ヘクタールの水面が消滅し、人工島が遮蔽物となって内湾の潮流を減速させました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数は激減しました。また、港湾整備も過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、自然とともに暮らすまち福岡のイメージが損なわれていきました。</p> <p>自然を破壊しながら造成されている人工島は、事業自体も破綻しています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、にっちもさっちもいかない泥沼にはまり込んでおり、造成土地が売れないという致命的な現実は、本市市政と財政を大きくゆがめました。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売が進捗しないと見るや、病院立地には不適で小児医療機関の本市東部への偏在と西部と南部の小児医療サービス低下が招来されると懸念されていたにもかかわらず、市立こども病院を移転させ、市内3カ所に案分され地産と市民にサービスを提供していた青果市場を統合移転したり、九大箱崎キャンパス跡地が適地であるにもかかわらず、人工島に総合体育館を建設したりするなど、本市施設の人工島への移転が、事業破綻の穴埋めとして、人工島の立地条件を無視し、説明責任を果たさないまま、市民を置き去りにして強行されています。</p> <p>人工島は毒ガモセアカゴケグモの繁殖地になっていることが明らかになりました。この人工島に市立こども病院を移転してよかつたのでしょうか。この移転は多くの市民にしわ寄せした市政の失敗ではないでしょうか。私たちは、平和に安全に、安心して暮らしていけるまち福岡を求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。また、2017年度末で市債発行残高は2兆1,623億円の見通しで、臨財債を除いても市民一人当たり119万円となっており、政令指定都市中ワーストツーのままでです。必要と展望のない人工島のために、借金を次世代に残すことはできません。</p> <p>本市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点を置く、誰もが住んでよかったですと言えるまちづくりに専心することではないでしょうか。</p> <p>よって、以下の事項を請願します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市長が市議会に提出した2017年度予算案のうち、80億円余の人工島関連予算案を否決すること。</li> </ol>				
審査年月日	平成年月日	結果	委員会		
	平成年月日		平成年月日		
年月日	平成年月日		本会議		

2017年3月8日

福岡市議会議長  
おばた 久弥様

博多湾会議  
福岡市東区奈多一丁目6番13号  
共同代表 脇 義重



## 2017年度予算案中80億円余の人工島関連予算案の否決を求める 請願

### 【請願項目】

市長が市議会に提出した2017年度予算案のうち、80億円余の人工島関連予算案を否決してください。

### 【請願理由】

福岡市は、今なお博多湾を埋め立てて人工島を造成中です。この事業は計画段階から多くの問題点が指摘されてきました。401haの水面が消滅し、人工島が遮蔽物となって内湾の潮流を減速させました。自然環境は激変し、水鳥の種数と生息数は激減しました。また、港湾整備も過剰投資になると指摘されてきました。市民生活に与えた影響も大きく、「自然とともに暮らす街、福岡」のイメージが損なわれていきました。

自然を破壊しながら造成されている人工島は、事業自体も破綻しています。抜本的な見直しを行うことなく続行され、二進も三進も行かない泥沼にはまり込んでおり、造成土地が売れないという致命的な現実は、福岡市政と財政を大きく歪めてきました。人工島事業は造成地分譲に補助金を支給する販売方法が導入され、それでも販売が進捗しないと見るや、病院立地には不適で小児医療機関の福岡市東部への偏在と西部と南部の小児医療サービス低下が招来されると懸念されていたにも拘わらず、市立こども病院を移転させ、市内3箇所に案分され地産と市民にサービスを提供していた青果市場を統合移転したり、九大箱崎キャンパス跡地が適地であるにも拘わらず、人工島に総合体育館を建設するなど、福岡市施設の人工島への移転が、事業破綻の穴埋めとして、人工島の立地条件を無視し、説明責任を果たさないまま、市民を置き去りにして強行されています。

人工島は毒蜘蛛セアカゴケグモの繁殖地になっていることが明らかになりました。この人工島に市立こども病院を移転してよかつたのでしょうか。この移転は多くの市民にしわ寄せした市政の失敗ではないでしょうか。私たちは、平和に安全に、安心して暮らしいける街福岡を求めています。破綻した人工島事業に、これ以上私たちの税金を使ってほしくありません。また、2017年度末で市債発行残高は2兆1623億円の見通しで、臨財債を除いても市民一人当たり119万円となっており、政令指定都市中ワースト2のままでです。必要と展望のない人工島のために、借金を次世代に残すことはできません。

福岡市がすべきことは、人工島事業の破綻救済に税金を使い続けることではなく、博多湾の豊かな自然とともにあって、人材が不足している福祉、医療、教育、文化に財政の重点をおく、だれもが「住んでよかったです」といえる街づくりに専心することではないでしょうか。

よって、2017年度、80億円余りの人工島関連予算案を否決し、人工島事業の抜本的見直しを行うよう求め、請願します。